

# 序

～第2版の発行に寄せて～

リハビリテーション医療に従事する者にとって、対象者の障害像を把握し、適切な介入を提供するために行われる『評価』は重要であり、評価に関する正しい知識と技術を習得することは不可欠である。

すでに、理学療法や作業療法の評価に関するテキストは数多く出版されている。そのなかで、本書の初版が2014年11月に発行されて以来、多くの読者に本書のコンセプトが理解され、受け入れられたことは、編著者として、このうえなく嬉しく感じている。

初版が発行されて以来、5年が経過する間に、高齢者における「フレイル」や「栄養」などに対する理解が求められるようになった。また来年度からは、理学療法士・作業療法士養成施設において改正後の指定規則が施行される予定である。評価学について、新しい指定規則では「画像評価」などが教育内容に含まれる。

今回の改訂では、こうした社会動向や規則改正をふまえつつ、新しい執筆者も加えて、より一層の内容の充実を図った。例えば、「画像所見の見方」では、できるだけ典型的な画像を掲載し、丁寧な説明を加えることにより、基本的な画像の読み方を理解できるようにした。また、「徒手筋力検査 (MMT)」では、読者の理解を助けるために、検査実施方法の動画を閲覧できるように工夫している。さらに今回の改訂では、新たに「体幹機能」「呼吸・循環・代謝」「栄養」「フレイル」の章も加えることにより内容の充実を図った。

以上のように、より理解しやすく時代に即した内容に改訂できたと自負している。本書を、養成校でのテキストとしてだけでなく、臨床に出てからも長く活用していただければ幸いである。

なお、今後も広く読者の皆様からの忌憚のないご意見をいただき、ご要望にお応えしながら、本書の改善を重ねていきたいと考えている。

2019年11月

潮見泰藏  
下田信明